

Monthly

a·c·o·n

まんすりー・えーこん

2009
歳末募金キャンペーンに
ご協力をお願いします

を越えて、
とアジアの
思いをつなぐ。

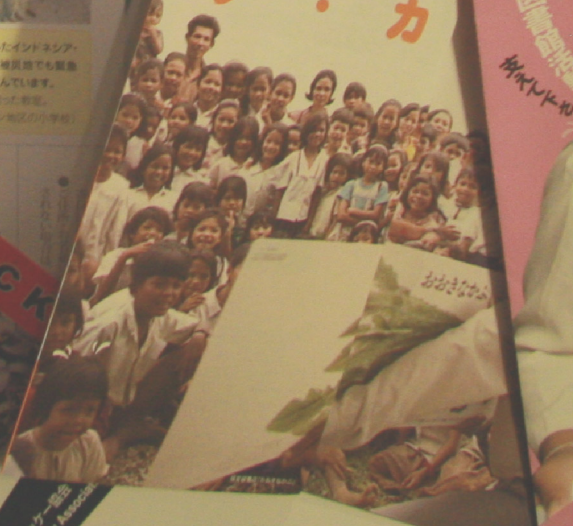


9月30日に発生したインドネシアスマトラ島沖地震被災地でも緊急救援活動に取り組んでいます。
(左側が寄つてしまった教室、右側がバグン・ノバヤン地区の小学校)

えほんの、

カンボジア義演キャンプで、ひとひらの子
「お菓子より、絵本が好き」 お菓子は食べたいが
けど、絵本は何個も読めるもん... 食料が不足が
なつて、お菓子は貴重品です、それでも、ひとひら
は、お菓子の子どもたち、わたしは、お菓子を
はく、図書館を置いて、絵本子どもたちに読んでも
を始めたことに、自信を頂きました。以来27年間、SVAはア
の国々で図書館事業を展開しています。
小さな絵本の大きなチカラ、あなたの手からアジアの子どもたち

チ・カ



としよ
大好き

図書館事業
おきなこ

ICE SLEDGE HOCKEY

2010年1月号

NICE！コミュニケーション事例

日常の中で、NGO/NPOのメッセージが目につくことがあります。情報が氾濫する世の中でそのメッセージに気付くということは、メッセージの発信の仕方がNICEだからではないでしょうか。本コーナーでは、そんなNGO/NPOのNICEなコミュニケーション事例を紹介していきます。

第1回 「SAY LOVE」

みなさん、写真のような募金箱を、最近、街中のお店で見かけませんでしたか？

今日ご紹介するのは、特定非営利活動法人 チャリティ・プラットフォームが展開しているチャリティーキャンペーン「SAY LOVE」(<http://saylove.jp/>)です。第2回となる今回のキャンペーンは、「こどもの笑顔100万コPROJECT」と題して、2009年12月から2010年3月まで展開しています。

この募金箱、年末に職場の近くのお店で見かけたのですが、調べてみると、沢山の企業がキャンペーンに協賛し、募金箱を店頭に置いているようです。「SAY

LOVE」のWEBサイトについてみると、ネット上からも寄付ができる模様。また、寄付だけでなく、ブログパーツの配布や、ツイッターでメッセージを送るプログラムなど、さまざまな参加のカタチが用意されているようです。

今回は、“こども”にフォーカスし、こども支援を行っている4つのNPOに、集まった寄付が届けられるそうです。このPROJECTでは、a-conがお手伝いをしている「カタリバ」さんも支援の対象になっています。



調べてみると、ソコトやYOMIURI ONLINEなどの雑誌やサイトの他に、「ミセス」「saita」といった主婦向けの雑誌も取材にきているようです。やはり、“こども”というキーワードがそういったメディアを振り向かせているのでしょうか。

リアルとWEBを組み合わせた複合型キャンペーンだからこそ、いろいろな人の目にもとまりやすく、世の中でも注目される仕組みになっているのではないのでしょうか。

Topics

NICE！コミュニケーション事例	P1
Topics	P2
a-conとは・・・	P2

特集①

イケてるDMのつくりかた	P3
--------------	----

特集②

新理事&監事決定！抱負を語る！！！！	P11
a-con NEWS HEADLINE	P13
海外NPOレポート	P14
次号予告	P14
編集後記	P14
事務局だより	P15
a-con WEBサイト	P15

a-conとは・・・

正式名称は“特定非営利活動法人NPOコミュニケーション支援機構”。
“action unit for communicative NPO”、略してa-con(えーこん)。

「NPOの活動を、どう世の中に伝えていったらいいか」
ということ、そのNPOの方たちと一緒に、
同じくらい真剣に考えて、
「コミュニケーション」という切り口でお手伝いするユニットです。

特集①

イケてるDMのつ



のくりかた



新規会員を獲得したい、募金額をどうにか増やしたい、イベントのことをもっと知ってもらいたい……そう考えて、ダイレクトメール（DM）を作成しているNPOも多いのではないのでしょうか。

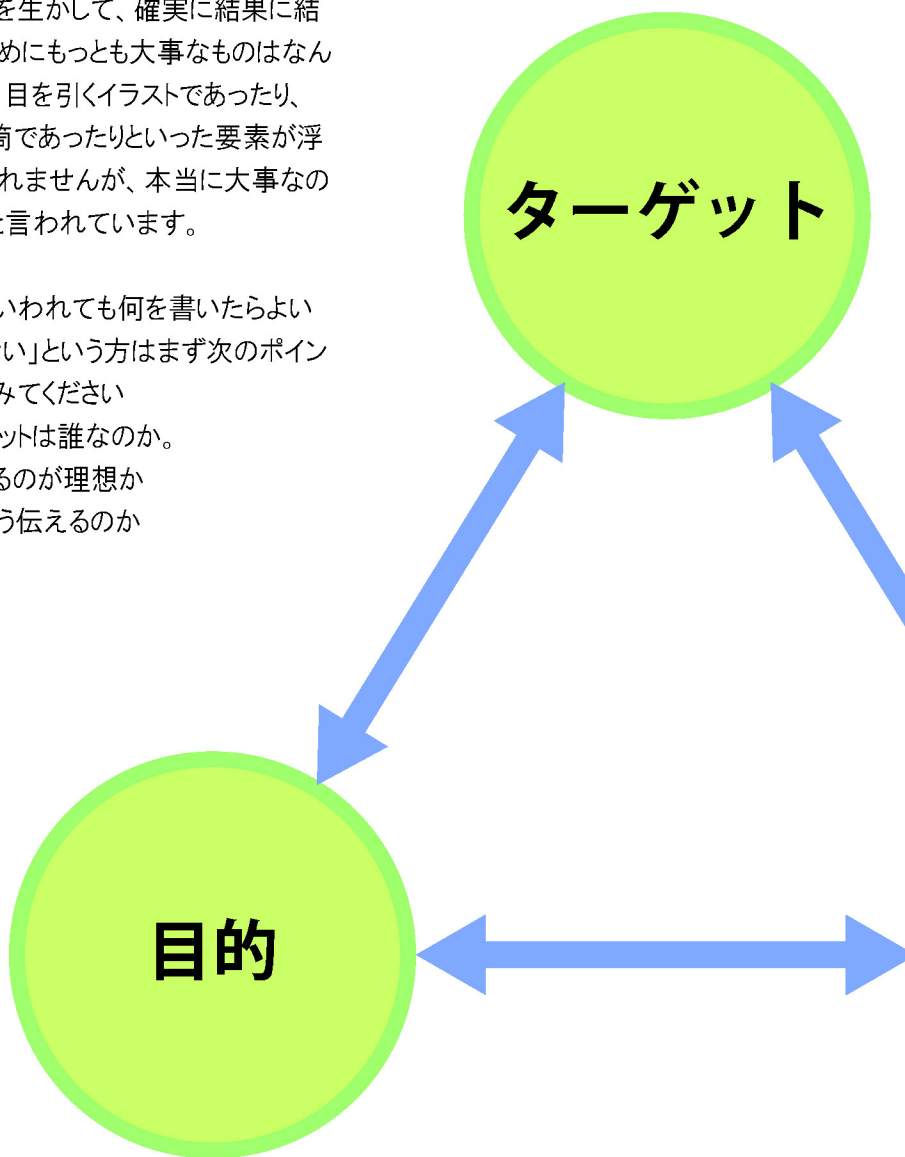
DMとは、お客様に直接届けることができる媒体です。新聞の折込チラシや、会場で配るフライヤーとは異なり、伝えたい人にその思いを伝えることができるのが特徴ですが、一般の企業体などライバルの多さから、読まれずにゴミ箱に捨てられてしまうことも。

では読んでもらえるDMと読んでもらえないDMの違い、もっと言えばよいDMと悪いDMの違いはどこにあるのでしょうか。今回の特集を読んでもらえばそのポイントをきっと見えてくるはずですよ。

DMの特徴を生かして、確実に結果に結びつけるためにもっとも大事なものはなんですか。目を引くイラストであったり、豪華な封筒であったりといった要素が浮かぶかもしれませんが、本当に大事なものは企画書とされています。

「企画書といわれても何を書いたらよいか分からない」という方はまず次のポイントを考えてみてください

- ① ターゲットは誰なのか。
- ② どうなるのが理想か
- ③ 何をどう伝えるのか



①は、誰に読んでもらいたいのかを決めます。年齢は何歳くらいなのか。性別はどちらなのか。ライフスタイルは、地域は……などをしっかりとリサーチして、伝えたい相手を絞りましょう。

②はDMの目的になります。新たに会員になってもらいたいのか。寄付をしてもらいたいのか。しっかりと絞り込みましょう。目的を複数にしたい場合もあるかもしれませんが、基本的には1つに絞り込むことで効果を高めることができるといわれています。

③は、簡単に言えば切り口です。伝えたい人に目的を伝えるためには、どのようにしたら良いのかを考えます。ここでこだわるのはとにかく分かりやすさ。読者の気持ちになって、何をどう伝えられたら目的を達成できるかを考えましょう。「的確なターゲット」「明確な目的」「相手を考えた切り口」、この3つがそろって初めてよいDMが産まれる基本ができます。



切り口

企画書を作成したら、次はいよいよ具体的な技術の話となります。企画書に沿って具現化するとき、どのような点に注意すべきなのでしょう。某教育関係DM担当者数名にアンケートをとったところ、全員が口をそろえて言うのは、とにかく“わかりやすさ”を重視するということです。事実、大量のDMに混ざらずに、しっかりと目的を伝えるためには、一見して理解できる容易さが必要です。そのためには3つのことに気をつけることが大切になってきます。

- ①データの有効活用
- ②ビジュアルの効果的活用
- ③視線の動きの意識

①データの有効活用とは、既存データをグラフ化・具体化し、DMで行動を起こした後、何が変わるのかを分かりやすくする方法です。某企業では一日の活動を円グラフにすることで、加入後のライフスタイルを想像させるなど、うまくデータを活用して加入率を高めています。SVAのDMでは、寄付した金額の使用用途が、具体的に表化されており、ただ寄付をする場合よりも変化を想像できるため、ハードルを下げることに成功しています。

SVA企画書 (抜粋)

夏の募金協力呼びかけのDM ←目的に相当
 ターゲット：過去に募金実績のある方
 ・高齢者・女性・寺院関係者が多い

体裁：A4サイズの3つ折、裏表4色。郵便振替用紙と一緒に透明PP封筒に入れて発送。

伝える視点：今までのものよりも、支援の意味や、支援する側と現地との繋がりがはっきりと見えるようなものにした

- ・メッセージ：
アジアの子どもたちに図書・教育支援を行うことの意義や長い力を有すること。
- ・伝えたい方向：
支援が現地としっかりと結ばれ成果を出していること
- ・要素：
支援者の声、現地子どもたちの声、教師の声……etc

夏の募金キャンペーン 日本の皆さまの真心を 私たちSVAが責任を持つ

日ごろより、シャンティ国際ボランティア会(SVA)の活動にあたたかい支援をいただき、心より感謝申し上げます。皆さまとともに歩んでまいりました。今年で28年目を迎えました。

各国事務所スタッフは、乾期には砂ぼこりにまみれ、雨期には泥だらけになりながら、ご支援をいただきながら活動しております。苦難の中心にこそ、私たちの活動の意義が感じられると私たちは考えます。一瞬一瞬に涙が伝わるものはあるかもしれませんが、継続が人びとに受け止められ、たくさんの芽が育っています。

この活動が長く続けられますよう、夏の募金キャンペーン、ぜひご協力をお願い申し上げます。

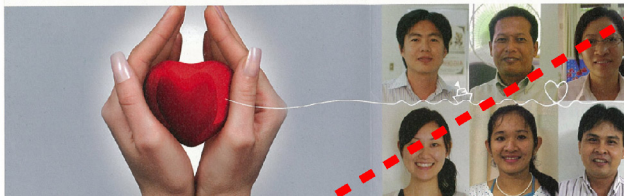
シャンティ国際ボランティア会
 会長 若林恭英



① 学校の建設
 現地で建設する校舎で勉強している子どもたちのために、学校を建てています。建設にあたっては行政との交渉や、完成後の海運費、そこで働く教員の養成なども大切な活動です。



② 図書室を建設
 図書室がなかったり、壊れている学校も多くあります。図書室を整え、子どもたちに読書の楽しさを伝える活動も、また子どもたちの未来のために大切な活動です。



支援者のみなさまの思い

絵本で子どもたちに夢を届けたい。



10年前に旅行で訪れたカンボジアのアンコールワットでは、また内戦の爪あとが生々しく残っており、物々しい子どもたちも目撃された大きなショックを受けました。SVAに協力しています。本物の力が何かを家に戻してあげたいです。

四野穂代さん
 SVAご支援団体「善夢(むむ)の会」代表

SVAスタッフの声

いただいたご支援を、現地でカタチに



カンボジアで学校施設の設計や、工事を出発が多く、現地と離れる時間が長いです。そして、子どもたちの未来のために働いています。スーザミー
 カンボジア事務所 学校建設担当
 (撮影 藤原王夫)

また、大量に届くDMのなかで開いても
らったり、中身をしっかりと吟味してもら
うためには、②ビジュアルの効果的活用
し、インパクトのあるものにするこ
も大事です。ある心理テストの結果によ
ると、人は1つのDMに対して最初の3秒程
度で判断をするそうです。そこで、問題意
識を駆り立てるようなイラストを使用す
ることや、読ませたいワードはビジュアル
のそばに組み入れることが必要となりま
す。SVAのDMでは、表紙に「学ぶ女の
子」を配置することで興味を引かせるこ
とに成功しています。

ビジュアルの次に大事になるのは③の目
の動きです。どんなに良いイラストを使
用しても、どんなに良いデータを使用し
ても、目線あちこちふらついては読む気
が失せてしまいます。右開きならば右から
左へ、左開きならば左から右へ視線が流
れるように文字やイラストを配置するの
が重要になります。

SVAのDMでは、中央のイラストの効果
で、左上の会長挨拶から右下の子
どもの感謝の言葉まで、流れるように募
金の流れが見える構造になっています。

②データの有効活用

て、アジアの子どもたちに届けます。

みなさまからの
ご支援で
できること

- 1,000円で
タイの小学生が通学に使うカバン1個
- 3,000円で
カンボジアで出版する絵本10冊分
- 10,000円で
アフガニスタンの先生3人が3日間の
図書館研修に参加
- 50,000円で
オースの学校に130冊の本が入った
図書箱を1つ贈呈



絵本の出版
子どもたちがまだ少ない国へ、絵
本を寄贈・出版しています。内戦や貧
困によって書籍が絶滅している国で、
現地のお母さんや先生から感謝を聞き取り、
輸送船にて国境の文化を伝えます。



した教育支援
現地には学校の図書室が
完備して、大人から子
どもから子どもへの読み
、図書館はみんなの口
の糧になっています。



基礎調査などを行っ
て、長期間移動したり、
トモ 前 前
ります。今は、直営機
ことが何よりうれし



(撮影：伊藤寛文)

アジアの子どもの気持ち

新しい学校で勉強できてうれしい。



コンクリート製の校舎になって、授業に集中するこ
とができます。教室内には安心して使える個室のト
イレがあるので、もう学校でトイレの心配をしなく
てよくなりました。私は本が大好き！ 学んで楽しい！
朝晩の勉強を忘れないで、一生懸命勉強します
この校舎をきれいに保っていきます。笑顔してくださ
った日本の皆さま、本当にありがとうございます。

ホーイ・ソシアちゃん
ドップ・ノット小学校2年生 12歳



②ビジュアルの効果的活用

海を越えて、
日本とアジアの
思いをつなぐ。

社団法人 ジャンティ国際ボランティア会
私たちは、世界中の子どもたちと、心をつなぐために活動しています。

これでもう失敗しない!

DM作りインタビュー

ここまでDM作りに関して、どのようなポイントが必要なのかをまとめてきました。ここからは実際にシャンティ国際ボランティア会（SVA）のDMを作成したa-conチームから、山田さん、桜井さんにインタビュー。作るにあたり、どのようなことに気をつけて作成したのか、突っ込んだところまで聞いてきました。

テーマの絞込みが大事

——SVAのDMIについて、09年夏と冬の2回お手伝いをしてきました。今回は夏に関して、お聞きしたいと思います。まず、「現地と支援者のつながり(絆)を描くことで、SVAの教育活動の意義を伝え、レスポンス率を上げることを」目標にしていたのですが、今まではどのようなテーマで行われていたのでしょうか、また今までとの違いはありますか

桜井 今までも、SVAでは色々とテーマを設けてきました。たとえば、災害発生時には緊急支援、通常は教育をテーマといった具合です。しかし、教育だけがテーマですと広げにくいこともあったようです。

山田 今回のテーマは、a-conの田村さんがかなり前もって聞き出してしてくれたので明確になりました。それまではテーマ性という意識が割りと薄かったですが、「DMIはひとつのテーマ性を伝えた方が効果がありますよ」と伝えた結果、今回の“つながり”というテーマが出てきました。

——今回のことで、特有のターゲットとかを絞られたとかはありますか

桜井 メインはお寺と年配の方ですが、今回に関して言えば、送付先データリストなども完備してなかったこともあり、誰にでも広く伝えられる内容にしました。

——今回のテーマを見せるために行った新たな工夫はありますか

山田 「募金したお金はなにに使われているの?」という部分を表記するようにしました。募金がどう使われているか変換できるメッセージは欲しいと思っていましたから。

桜井 募金対象を明確にしたのもポイントです。今までは「私たちは本を贈っています」ということ以外はSVAの解説がカナリり量詰め込まれているような形でした。そのため、募金が誰に届くのか伝えきれてなかった部分があると思います。今回は開いてみると、募金する人からどう子どもにつながっていくのかが左脳的に理解できるようになっています。

山田 また、今までは支援先の子どものみに視点がありましたが、募金する人から始まり、仲介する職員さん、現地スタッフ、子どもたちの順に届いていくというのをビジュアルで伝えられるようにしました。



課題の把握がよいDMを作る

——実際の作成の中で、デザイナーさんとの連携は大事になってくると思います。今回デザイナーさんとのやり取りで気をつけたことなどはありますか

桜井 今回に関してはデザイナーさんが非常に優秀だったので特に注意することはなかったです(笑)ただ、しっかりと資料を作成し、作るものはこのサイズで、渡す相手はこういう方で……というような意図はしっかりと伝えました。

——ここには、かなり明確にターゲットや作成意図が書かれていますね。(P7参照)これだけしっかりと作ってあったから伝えられたのかもしれませんが。

山田 SVAさんも一発目から、「こういうのが良かったんです」ととても好評でした。うまくできたのは、資料を作成する前にSVAとしての経営課題や願いといったものをしっかりと聞きだし、メンバー間で共有して挑めたことが大きいと思います。誰かが迷ったときにも、「これってこういうことだよ」としっかりとプレずに考えることができましたから。

——実際送付後の反応はどうでしたか

桜井 今回のDMを出した後、募金者から「こんな時代でみんなが苦しいからこそ力になればと思って募金しました。」といったコメントをもらえました。

——そのコメントは、つながりというテーマを分かってもらえたからこそという感じですね。



透明性を今後も大事に

——今後もまだSVAさんとの連携は続くと思いますが、その際にDMでやってみたいことはどんなことでしょうか。

山田 NPOに特化した話ですが、募金が何に使われているのかを知りたいんじゃないかと思っています。自分が募金するときも、本当に支援に使われているのか疑問に思うこともありますから。そこを実際にどう使われているのかを見せることができればと思っています。募金の透明性みたいなものを高められればという部分はDMを作るうえで意識するところなのかなと思っています。

桜井 SVAのように大きい組織ですと、募金のターゲットの方も色々いらっしやいます。ですから今後はターゲットによって中身を替えたり、一筆箋を入れてみたりするのは面白いかなと考えてます。

——ありがとうございました。



新 理 事 & 監 事 決 定 !

抱 負 を 語 る ! ! !

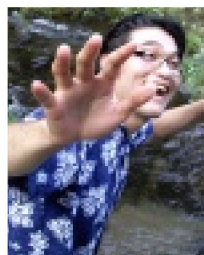
去る2009年12月19日の総会において、a-conの新たな理事&監事が決定。
そこで、簡単な自己紹介と抱負を語っていただきました。

加形 拓也 (理事長)



生年月日:1978.5.19
(ビーフ座)
好きなこと:焼肉・ちゃんこ
コメント:ダイエットのためにもこまめに動くぞ! 2010! なまけてたらにんじんぶらさげてください。

緒方 太郎 (理事)



生年月日:1980.10.15
てんびん座
好きなこと:食べ歩き、ダイエット(無駄な抵抗)
コメント:a-conを活性化できるよう全力を尽くします。

井上 裕太 (理事)



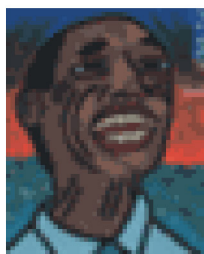
生年月日:1984.9.30
好きなこと:スポーツ、デザイン・アート・ファッション、旅行・キャンプ・温泉
コメント:"仕組みと緩やかさ"のバランスを活かせば、わくわくすることが出来るはず。

木下 元 (理事)



生年月日:1977.11.1
(う・・・最年長の予感orz)
好きなこと:食えること、旅すること
コメント:出張(旅)を通じて、もっと視野を広げたい! あと勘定奉行頑張ります。

江藤 隆文 (理事)



生年月日:1983.7.16
好きなこと:合理的なこと、知の探求、からだを動かすこと
コメント:みんなが与えられた役割を気持ちよくこなしていけるの土台作りをしたいです。

小久保 ひろし (理事)



生年月日:1982.12.16
好きなこと:考えること、サッカー
コメント:ライフワークとして、NPONGOの後方(広報)支援をPRの力でサポートします。

桜井 香織 (理事)



生年月日:1981.10.8
すきなこと:時間を気にせずしゃべること、カフェ、本
コメント:1人じゃできないことも、みんなでならできる、を実行する1年に。

原文子 (理事)



生年月日:1981.6.23
すきなこと:音楽、本、睡眠
コメント:日本のNPOを元気にするためには、まずはa-conをもっと元気に!!

清水 龍生 (理事)



生年月日:1979.8.22
すきなこと:ロックとピックカメラ
コメント:みんなが無理をせずに、良いアウトプットを出し続けるための方法を見つけたいな。

伊藤 康人 (監事)



生年月日:1981.5.13
すきなこと:法律学を研究する。
コメント:法令を順守してがんばっていきたいです。

白石 翔太 (理事)



生年月日:1988.5.21
すきなこと:愛犬ミルクと戯れる、ギターでの作曲活動
コメント:a-conにも、NPOの活動にも、たくさんの人を巻き込んで行きたいです。

“理事”“監事”ってなんだろう？

NPO法上の理事とは、ひらたくいうと、団体の経営陣という位置づけです。

株式会社でいうと取締役ですね。ですが、a-conは、各プロジェクトがNPOにコミュニケーションサポートを行って価値を出すフラットな組織なので、理事会があればこれやれ、というような形では機能ません。

a-conの理事の定義は現状

「a-conの活動がサポートするNPOに対して価値を持ちつづけ、同時に、メンバーがモチベーション高く、楽しく活動するために、色々と全体視点で仕組みを整え、アクションを起こし、下支えしていく役割」としてあります。

林田 全弘 (理事)



生年月日:1979.2.15
すきなこと:デザインネタ収集
コメント:今年のテーマは、自立と連帯。能力ある個人と2回はコラボしたいです。

～NPO・NGOのニュースやイベント情報をちょっぴりつまみぐい～

ボランティアフォーラム

TOKYO 2010開催

東京ボランティア・市民活動センターは2月5日から7日まで、ボランティアや市民活動に関心のある方を対象に、「市民社会をつくる ボランティアフォーラム TOKYO 2010」を開催する。

現代社会が抱える多様な問題を、多くの市民、参加者が共有し、共に考えるためのイベント。今回のテーマは「希望は市民(わたしたち)が創る」とし、そのテーマの下、「考える」、「育てる」、「つながる」、「発信する」の4つのカテゴリーを設け、それぞれに複数の分科会を用意する。

a-conからは加形理事長が7日に開催される「考える」カテゴリー内の「就職氷河期時代の“多様な働き方”」セミナーで講師を行う予定となっている。

会場は東京ボランティア・市民活動センター、飯田橋セントラルプラザほか。参加費1,000円。申し込みは下記の申し込みフォームから。

<http://www.tvac.or.jp/special/vf2010/abc.html>

Smile Parkが始動

加形理事長の友人でデザイナーのsugiX(スギエックス)氏が主催のモノづくりプロジェクト「Smile Park(スマイルパーク)」が昨年11月から始動を開始した。同プロジェクトはsugiX氏が世界各地に滞在し、そこで肌で触れた事をベースに、なぜそのものを作るのかを考え、そのモノを、日本にいるプランナーkosaka氏が、そのものの存在意義も含め、伝えていくもの。

sugiX氏は近々に小誌内で連載をスタート予定。詳細は次号。

Facebook内で寄付アプリが流行

1月12日に起きたハイチ大震災の後、SNS「Facebook」内で、ソーシャルアプリ「Causes」を使用した同地震被害への募金が広がっている。

「Causes」は社会問題に対して意見交換を行うことなどができるほか、活動内容や趣旨に賛同できる団体に対して寄付をすることもできるアプリ。既に海外では3万以上ものNGOやNPOが同アプリを利用している。

大震災から現在まで、この「Causes」で4700人以上のFacebookユーザーがハイチ大地震被害への寄付を行い2万7000\$が集まっているという。

海外NPOLレポート

“Aikido Without Borders(国境なき合気道)”は、米国出身Miles Kessler氏が2006年にイスラエルで設立した平和活動団体です。



主にイスラエル・東エルサレム・ヨルダン川西岸で、「敵と戦い敵をやぶる術ではなく、世界を和合させ、人類を一家たらしめる道」としての合気道を紹介することが活動の内容。

昨年10月からは、世界132の国と地域で活動する児童福祉NGO “SOS Children’s Villages”と協同で、ベツレヘムの子ども達に合気道を教えているそうです。

Kessler氏の活動の原点となっているのは、日本の道場に住込みで修行した8年間。日本の武道や「ありがとうございました」といった言葉が紛争地域で生きる子ども達に、外国人を通して伝えられているのですね。

Aikido Without Borders ブログ

http://mileskessler.gaia.com/blog/2008/10/aikido_without_borders

SOS Kinderdorf International (SOS Children's Villages) サイト

<http://www.sos-childrensvillages.org/>

< 文責: AINA >

次号予告

特集1

ボランティアフォーラム

特集2

JUONネットワーク

編集後記

明けましておめでとうございます。

a-conが迎える3回目のお正月、みなさまはいかがお過ごしですか。一年の抱負は決めましたか? 「monthly a-con」チームの抱負は、「継続と進化」でいきたいと思えます。今年もよろしくお願ひします。〈はらぽん〉

事務局だより

参加者大募集！

◆定例会

日時：2月20日(土) 15:00～17:00

場所：台東区立社会教育センター

内容：各プロジェクトの最新情報盛りだくさん。

定例会後はお楽しみの懇親会！わいわい楽しみましょう！！

◆a-conゼミナール

只今準備中。次の開講日はWEBでお知らせします

◆オリエンテーション

開催に向けて調整中。詳細はWEBでお知らせします。

a-conメンバー大募集！

NPO・ボランティア・コミュニケーションに興味がある、社会貢献してみたい、余暇を何かに使いたい…など、少しでもピンときた方、a-conには色んな関わり方があります。一緒に活動してみませんか？

お問い合わせは、下記a-con事務局までお気軽にどうぞ！

mail:jimukyoku@a-conweb.net（担当：佐藤、南）

a-con WEBサイト

a-conの活動や、その他いろいろな情報を発信しています。

WEBサイトへもぜひ遊びにきてください。

URL：<http://blog.a-conweb.net/>

発行元：特定非営利活動法人 NPOコミュニケーション支援機構(a-con)

WEB：<http://a-conweb.net/>

編集長(代理)：原文子 DESIGN：佐藤美弥子

編集：緒方太郎 岸上友香 佐藤美弥子 森山紗也子 涌井健策（五十音順）